

FUTURE CENTER

フューチャーセンター通信

2016.12.4 2017年2月15日発行号

VOL.28



地域に眠る資源を知り その活用を考える

12月4日(日)、郡上市大和町母袋(もたい)地域において、岐阜大学と地元の地域づくり団体「母袋わくわく会」との共催で、地域資源の磨き上げを目的としたフィールドワーク実習を開催しました。

最初に、母袋地域の概要説明を受け、2班に分かれて史跡や地域内の施設へ現地踏査に向かいました。各史跡では、地元の方からその言われの説明を受け、写真撮影も行いました。

次に、全員で、撮影した写真の確認と現地踏査の振り返りを行い、「炭焼き窯は珍しく、自分も炭焼きがしたい」「由緒ある岩が多く存在している」など各資源の興味深い点をあげました。

最後に、学生が資源の活用方法について検討し、「炭焼き体験イベント」や「武蔵坊弁慶が座ったとされる岩で現代の弁慶を決めるコンテストを開催する」などのアイデアが提案されました。

今回の実習を通して出されたアイデアは、今後、「母袋わくわく会」の活動の参考とされます。また、引き続き母袋地域と連携して地域づくり活動をしていく予定です。



各グループからの
意見・アイデア

今回のまとめ

踏査のまとめ

- 弁慶岩、槍岩など小さな集落に由緒ある岩が多くある
- 今では珍しくなった炭焼き窯が当時のまま残っている
- 燗り豆腐、どぶろくなど特徴ある飲食物がある

活用提案

- 鎌倉街道、平家伝説にまつわる史跡めぐりを開催したい
- 弁慶岩で現代の弁慶を決めるコンテストを開催したい
- 炭焼き窯を作る。作った窯で炭焼きの体験イベントを開催したい



母袋を岐大の地域づくり実践フィールドに

母袋わくわく会

野田 秀幸 さん

いろいろな伝承や言われが多く残るちょっと変わった極小集落・母袋。今、母袋わくわくビジョンを作成する計画があります。学生の皆さんには、母袋住民のアイドルになっていただき、今後とも一緒になって地域づくりを楽しんでいただけたらうれしく思います。



資源の再発掘と、観光資源への発展

母袋地域おこし支援隊

吉田 雄輔 さん

地域の人たちが日常では見逃してしまう、土地が内包する歴史・史跡の面白さを、外部からの視点と若い感性が交流することにより、新しい価値を見出し観光資源として活用していくビジョンが生まれました。アイデアを実現につなげるため継続的に実施していけたらと思います。



CCSC
Center for Collaborative Study with Community

地域協学センター
TEL.058-293-3168
<http://www.ccsc.gifu-u.ac.jp>

[FAX] 058-293-3167
[E-Mail] ccsc@gifu-u.ac.jp



国立大学法人

岐阜大学



文部科学省

地(知)の拠点